

留萌ロータリークラブ 会報

2006▶2007
WEEKLY REPORT

会長/中川 勝美 幹事/対馬 健一



率先しよう

2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ

留萌ロータリークラブ会長テーマ
魅力ある明るく楽しいクラブは、
ロータリーを知り、
会員家族との親睦から

No. 2254 第15回 10月18日

プログラム

●本日

ソバ打ち夜間例会
親睦活動委員会担当

会員誕生日

10月19日 渡部 英次
10月20日 関野 政人

結婚記念日

10月18日 渡邊 裕久
10月22日 行徳 幸治
10月23日 鈴木 康伸

●次週予定

会員卓話「地区大会報告」

ご夫人誕生日

10月22日 平間 公子

出席委員会報告

前例会

会員総数.....51名
出免会員.....8名
欠席会員.....11名
出席率..... 74.42%

前々回

第12回 9月27日
欠席会員.....7名
メイクアップ.....2名
修正出席率..... 88.37%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



会長報告

- 次週18日の例会は新ソバ夜間例会です。新ソバとお酒で楽しんでいただきたいと思います。企画準備、親睦委員会の皆様よろしくお願いします。
- 14日土曜日は札幌市民会館にて地区大会が開催されます。参加される会員の皆様は朝早いですけれど宜しくお願いします。また、当日親睦並びに出席委員会の皆様、バスその他の接待宜しくお願いします。
- 武井会員の会社が変わりました。現在の武井商店からエア・ウォーター・エネルギー株式会社滝川支店留萌店の顧問となりました。なおロータリー関係の連絡、電話FAXなどは現在と同じです。



幹事報告

会報受領先

- ・妹背牛RC 8号~ 11号
- ・羽幌RC 1326号~ 1329号

ゲスト

国際ロータリー第2510地区
職業奉仕委員長 礪波 寿様

ビジター

札幌幌南ロータリークラブ
羽部 大仁様

委員会報告

親睦活動委員会 明澤委員長

次週18日の例会は新ソバ夜間例会となっております。新ソバは体に良いとされておりますので、是非皆様おいしい新ソバをお召し上がり頂きたいと思っております。お酒の用意をしております。ソバ打ちも体験できます。自分で打ったソバをその場で食べるもよし、家族へのおみやげにするのも良いですので、是非多くの会員の出席をお願いします。

3分間情報

情報委員会 高田委員長

(前回のつづき)

地域社会が必要としているニーズを探るためには、現地に直接赴く必要があります。特に遠隔の地で実施する世界社会奉仕では、現地における事前調査が必要不可欠です。

私が始めて地区の国際奉仕委員長をしたのは1988年でした。私は地区世界社会奉仕委員長と共にフィリピンに赴き、現地のロータリークラブと共にプロジェクトの事前調査を行い、今後のWCS活動の拠点にするために、スラム地区にロータリー・センターを建設するという5万ドル相当の大規模プロジェクトと、医療器具・足踏みミシン・大工道具・文具提供、教育資金助成などの1000ドル程度の小規模プロジェクト10件を選びました。小規模プロジェクトは地区内クラブから希望を募ってスポンサーをお願いし、これに加わらなかったクラブで、この事業に参加を希望するクラブに大規模プロジェクトの共同スポンサーをお願いしました。

本来ならば、クラブが独自に世界社会奉仕のプロジェクトを探すのが原則ですが、事前調査までしてプロジェクトを選定できるクラブは限られていますので、私の地区ではこの方式が継続されており、プロジェクトの事前調査には地区国際奉仕委員が、プロジェクトの竣工式や完成時には地区国際奉仕委員とスポンサークラブの会員が現地を訪ねることにしています。

実施国も当初のフィリピンから、現在はカンボジア、タイ、ネパール、インド、インドネシア、バングラディシュ、フィジー、ベトナムとアジア、太平洋一円に広がっています。

(田中毅PDG作「ロータリーの源流」より引用)

ニコニコBOX

- 久しぶりに留萌へ参りました 大変お世話になっております 本日は運転手で来ました
札幌南RC 羽部会員
- 少し良い事がありました 二ノ宮会員
- 河部会員よりDVDをいただきました
天谷元会員

前 回	459,000円
今 回	5,500円
累 計	464,500円

プログラム

「職業奉仕月間にちなんで」

国際ロータリー第2510地区

職業奉仕委員会委員長 礪波 寿様

ロータリークラブは言うまでも無く、奉仕を志す人たちの集団です。したがって職業奉仕活動も、個々の会員が各々の職業に携わる中で、思いやりと助け合いの心を発揮して、世のため人のために役立つ事が本来の目的であります。

では、ロータリーの職業奉仕とは何かと問われて即座に答えることは大変難しい事ですが、「ロータリーの綱領」第2項がこの職業奉仕を端的に表現したものと言えると思います。

職業奉仕とは、他の団体にない奉仕分野であり、いつでも誰でも出来るもので、いわばロータリーの生活の規範をなすものだから、ロータリーの「金看板」と言われる所以であると述べられています。しかし、ただ単に職業奉仕はロータリーの金看板であると言って呼びかけても、余りにも漠然としていて、なかなか実践に結びつき難く「職業奉仕は判り難い」と云う言葉として返ってきます。

そもそも職業奉仕と云う奉仕ジャンルがあるのはロータリーだけで、他の奉仕クラブ、例えばライオンズ・青年会議所などにも無く、従って職業奉仕はロータリーを特徴付けるものであると言われていました。これは単に奉仕クラブに限らず、社会奉仕には専門の行政機関があり、多数の福祉専門団体もありますが、職業奉仕を扱う行政は無いとの事です。それだけにロータリーの職業奉仕と云えば意義深いものを感じます。また、それ故にも職業奉仕はロータリーの独壇場であるからロータリアンたるもの、十分に関心を持たねばならぬ分野であると云えます。

超我の奉仕

1908年に一人の大学生の入会者があり、アーサー・フレデリック・セルドンという経営学者で、自らもセールスマン養成の学校の理事者でした。彼はロータリーに入って考えたことは、第1にこの会ははっきりした旗印がない。なんとか世の中の役に立つ目標と標語が必要であると考えました。

当時のシカゴは全米から集まった金の亡者達で異常な活気を呈していたが、ただ金儲け専門で商業道徳は全く乱れ、被害は消費者側で防衛しなければ...と平気で語られていました。しかし、全米を被う不景気には効し難く、破産・倒産は相次ぎ、詐欺横領が横行して目も当てられぬ修羅場となっていました。そんな中にも繁盛を続けている商人がありました。それらの人々は品物も良く、しかも安い、客扱いも丁寧であるのが定石でありました。セルドンはこれだと思いました。ロータリアンは皆んな職業人である。社会の信用を保つのが第1だと考え、そして正しい商売をすれば必ず繁盛して、市民にも喜ばれ、ひいては世の中に役に立つ、これをロータリーの旗印にしようと、そして標語を考えつつ「最も奉仕する者・最も報われる」と提唱し、やがてこれがロータリーの公式標語となり、職業奉仕が確率されたのでした。

後に、いくつかの標語として採用されたが、議論を重ね、セルドンの進言で、奉仕第一、自己第二という意味で、「超我の奉仕」と訳されて



いてロータリー標語の中心となっています。

このようにしてロータリーにおける職業奉仕は次第にその輪郭が明らかとなり、1922年に定められた綱領に明確に定義付けられて来たのであります。即ち、綱領第2・職業上の「道徳的基準」全ての有用なる職業の価値あることの認識、そして社会に奉仕する好機として業務を各ロータリアンにより権威あらしめることと定められています。

職業奉仕の「四つのテスト」

ハーバート・テラーは1939年～40年にシカゴクラブの会長、1954年～55年度に国際ロータリー会長となりました。テラーはアルミニウム製品会社の経営危機を救う為、社内の誰でもがすぐ覚えられるような簡単な倫理的尺度が必要と考え、頭に浮かんだ「四つのテスト」を考案し、「社は」として実践させたところ、好結果を修めたので、彼は他の人にも「四つのテスト」を分かち合いました。今では「四つのテスト」は職業奉仕に欠かせないツールとなりました。

ハーバート・テラーはセールスからたたき上げの人で、たまたま倒産寸前のアルミニウム製品会社の再建を頼まれた時、自社製品が他社に比べて少しも遜色ないのに、なぜ他社が栄え我が社は潰れるのか、品質に優劣が無いのにこの差が生じるのは結局セールスにある事に気付きました。

そこでセールスマンに次の四点を強調しました。すなわち、我が社の製品の長所を過大に宣伝してはならない。他社の製品を悪く言っては

第14回 10月11日(水) 天候/曇

ならない。これが真実・公平ということである。第3にセールスは嫌われてはならない。いかなる場合にも即ち、買う人にも買わない人にも平等に親しまれ、喜ばなければならない。そして第4はこのセールスは良い品を安く売っているのだから、世の中に役に立っているという自信と誇りを持つ事だと、訓えています。ロータリアンなら誰でも「四つのテスト」の最初の言葉が「真実かどうか」を知っています。即ち仕事上で、「嘘をつかない」という事が最も重要な事なのです。

職業奉仕と社会奉仕の差異

社会奉仕と職業奉仕の違いは、職業奉仕の定義の一つに「職業奉仕を通して、社会に奉仕する」とあります。しかしこれでは、職業奉仕は社会奉仕の一部という錯覚が生まれます。はっきりと「職業で」とならなければなりません。

例を挙げると、タクシーの運転手が客を乗せメモを頼りに、やっと客を目的地に送り届けたとします。これは職業奉仕です。お金を貰って客を目的地に運ぶのがタクシーの運転手の職業だからです。その帰り道、重い荷物を持って思案顔をしていたお婆さんに声を掛けたところ、「行き先がわからず、困っている。」との事、そこはタクシーの帰り道、だからお婆さんを無料でそこまで乗せてあげたとします。これは職業奉仕ではなくて、社会奉仕の小さな親切となります。何故なら無料では職業ではないからです。料金を貰ってこそ職業だからです。こんな例は沢山あります。会員の医師が例会終了後、無料で血液検査をしたとします。これは先ほどのタクシーの運転手の例で判るように同じく社会奉仕で、職業奉仕ではありません。更に職業奉仕だからといって何も損をしてまで相手に儲けさせると云うものではありません。儲けるための手段が反道徳的であってはいけなしいし、社会全体の事を考えて公正にと云っているのにすぎないとの事です。適正利潤、道徳心の高揚、公正な判断、この三つを基本においた経営と云う事になります。

RI理事会は一人ひとりのロータリアンだけ

でなく、クラブでも、職業奉仕の理想を地域社会に日常実践するよう強調するため、毎年10月に、特に職業奉仕に焦点を絞ったプログラムを行う「職業奉仕月間」と決めました。職業奉仕はクラブ会員ばかりでなく、各クラブの両方の責務です。

今月は地区内各クラブでも職業奉仕のフォーラム又は勉強会などの計画をされ、私たち地区委員会にも多くの卓話要請の依頼が来ています。地区内各クラブのロータリアンの皆様と一緒に「奉仕の実践」に努めて参りたいと思います。ご理解ご協力をお願いします。

本日はありがとうございました。

